

## 民国連携に向けた徳島県三好地区のケーススタディ会議を開催

平成30年7月 2日  
徳島森林管理署

平成28年度、徳島森林管理署、徳島県、三好市と林業事業体から構成されるケーススタディ会議を設け、地域の森林・林業の再生に向けた課題把握とそれらの解決に向け国有林と民有林が連携して取り組んでいます。

この取組も3年目に入り、これまで様々な取組を展開してきましたが、これからも地域のニーズを把握し、それらを反映した取組を展開していきます。

ところで6月28日、徳島県西部総合県民局において平成30年度第1回目のケーススタディ会議を行い、地域が抱える課題の再確認と今年度の取組について協議し、更なる民国連携を目指した取組みをスタートしました。

はじめに、徳島森林管理署から国有林に隣接する民有林との一体的な森林施業を目指す上での今後の具体的な取組みや、人材育成を目的として市町村林務担当者等を対象にした現地検討会の開催などについて説明しました。



署長が地域の森林・林業再生に向けた課題を確認



今年度第1回ケーススタディ会議の様子

その後、意見交換に移り、各機関からは民国連携に関する要望や意見が出されました。

特に、三好市からは平成 31 年度から森林環境譲与税や新たな森林管理システムが推進される予定となっていることを踏まえ、徳島森林管理署からの様々な面での支援・協力要請があり、ケーススタディ会議全体で三好市が取り組む新たな森林管理システムの構築に向けた支援に取り組むことを確認しました。



三好西部森林組合から民国連携に向けた意見



新たな森林管理システムの構築に向けた要望

また、徳島森林管理署が南つるぎ地域活性協議会との協定に基づき取り組んでいるシカ被害対策の具体的な取組みなどに関する質問が出されました。



シカ被害対策について徳島署担当者から説明

また、徳島森林管理署では、徳島県内広域(阿波地美栄推進協議会)が全国で17の「ジビエ利用モデル地区」に指定されたことを踏まえ、これらとも連携し、民国連携による効果的なシカ被害対策に取り組むことを説明するとともに、連携実現に向けた協力要請しました。

このように、徳島森林管理署では、今後も多様な機関・団体等と連携し、地域の森林・林業の再生に向けた取組を積極的かつ前広に展開していきます。



徳島署長の説明

#### 平成30年度ケーススタディ会議において行う現地検討会

項目	時期	対象者	備考
低コスト林業現地検討会	H30. 10予定	民有林関係者、市町村林務担当者等	混合契約(栗枝渡国有林)
低コスト林業現地検討会	H30. 11予定	〃	造林+シカ対策(塔の丸国有林)
木材利用	H30. 9予定	〃	嶺北署CLT庁舎構造見学会